

安全安心街づくりに関する市民意向調査結果について

1 調査概要

1 調査の目的	○仙台市安全安心街づくり基本計画の見直しにあたり、市民が日常生活において、安全安心について感じていることや、施策に対する意見を把握するための基礎資料とするため。
2 調査対象者 及び回収数	○仙台市内に居住する満18～89歳の男女2,000人 ○アンケート調査：2,000件、回収数：1,027件、回収率：51.4%
3 調査方法	○郵送法（定型質問紙によるアンケート方式）
4 調査項目	○回答者の属性 ○安全安心街づくりについて ①安全安心街づくりの現状・課題について ②個人や地域の防犯対策について ③行政の防犯対策について ④街中における迷惑行為について ⑤防犯や安全安心街づくりについて（自由意見）
5 調査期間	○令和2年4～6月

2 市民意向調査に見る市民意識

(1) 犯罪が発生する可能性について

日常の行動範囲内で犯罪が発生する可能性について、高くなったと感じている方の割合は、27年調査より**7.9ポイント減少**しました。

「高くなった」と答えた方にその理由を聞いたところ「犯罪が多様化、巧妙化してきたから（インターネット犯罪、振り込め詐欺等）」（72.0%）、「不審者が多くなったような気がするから」（38.1%）、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」（32.7%）が上位となっています。

また、日常生活の身近なところで発生する可能性の高い犯罪として「悪徳商法や詐欺など」（38.5%）、「高齢者が被害者となる犯罪」（37.2%）、「空き巣や忍び込みなど」（31.2%）が上位となっています。

地域で犯罪の発生を招くものとして不安に感じているものを聞いたところ、「道路や公園の暗がりや見通しの悪さ」（51.0%）、「空家、廃屋、空き地」（27.4%）、「たばこやごみのポイ捨ての放置」（22.7%）が上位となっています。

(2) 地域の防犯対策について

地域の防犯力を高めるために必要な取り組みを聞いたところ、「児童の登下校時の通学路の見守り・パトロール」（57.2%）、「地域内の暗がり等の危険箇所点検」（54.5%）、「夜間のパトロール」（35.2%）が上位を占めています。

また、地域の防犯協会について知っているかを尋ねたところ、「具体的な名称・活動内容まで知っている」（9.6%）で、「知らない」（58.5%）が半数以上を占め、防犯協会の存在を認知して

いない結果となっています。

また、防犯活動の必要性については、89.9%の方が「必要だと思う」と回答しており、45.1%の方が「機会があれば参加したい」と回答しています。

防犯活動に参加している人に、成果があったと感じていることについて聞いたところ、「地域住民に知り合いが増えた」(55.8%)、「地域の連帯感が強くなった」(44.2%)、「地域住民が安全に安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」(36.5%)が上位となっています。

一方、防犯活動に参加して感じた課題を聞いたところ、「参加者の高齢化が進んでいる」(75.0%)、「参加者数の維持が困難又は不足している」(38.5%)、「行政、警察、学校等や町内会、防犯団体との連携が足りない又は連携できない」(19.2%)、が上位となっています。

(3) 行政や警察に望む防犯対策について

安全安心街づくりのために重要と考える行政や警察の取り組みを聞いたところ、「防犯灯や街路灯を整備する(道路を明るくする)」(53.1%)、「地域の犯罪発生状況を提供する」(48.7%)、「警察官による巡回活動を強化する」(46.8%)が上位となっています。

(4) 迷惑行為について

この1年間で迷惑と感じた行為を聞いたところ、「空き缶・ごみ・たばこ等のポイ捨て」(40.5%)、「自転車の走行マナーの悪さ」(38.5%)、「歩きたばこ」(35.2%)が上位となっています。

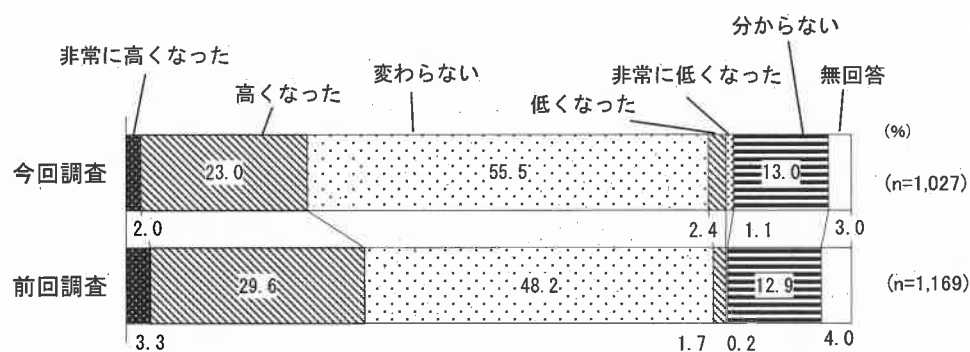
3. 調査結果（抜粋）

(1) 犯罪が発生する可能性

●犯罪が発生する可能性について

問7 あなたは、ご自身やあなたの家族が犯罪に巻き込まれたり、日常の行動範囲内で犯罪が発生する可能性について、どのようにお感じですか。日常の行動範囲内（自宅周辺及び市内の通勤・通学、買物等で行く地域）であてはまるものをお答えください。（○は1つ）

<図表2-1>犯罪が発生する可能性について/前回比較



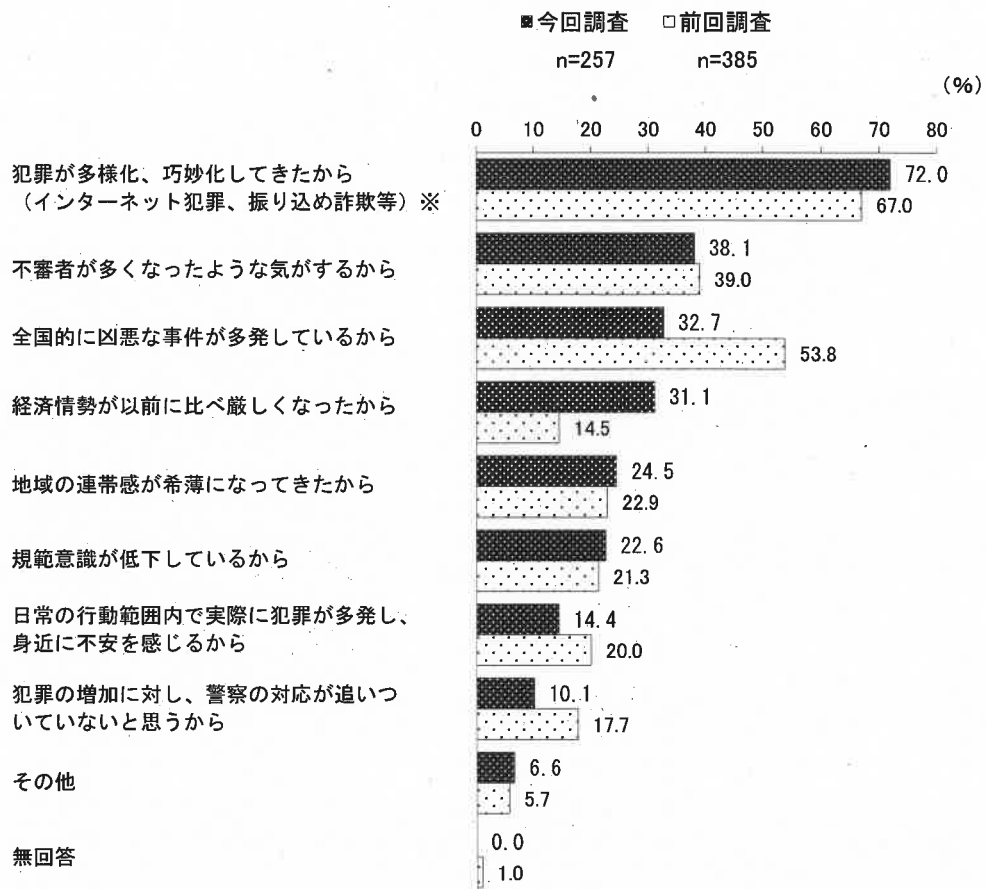
犯罪が発生する可能性については、「変わらない」が55.5%と最も多く、「非常に高くなった」「高くなった」を合わせた犯罪が発生する可能性が“高くなった”と回答した人は25.0%となっています。また、「低くなった」「非常に低くなった」を合わせた犯罪は発生する可能性が“低くなった”と回答した人は3.5%となっています。

前回調査と比較すると、“高くなった”と回答した人は7.9ポイントの減少となっており、“低くなった”と回答した人は1.6ポイントの増加、「変わらない」と回答した人は7.3ポイントの増加となっています。

●犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由

問7-1 犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由はどれですか。あてはまるものをお答えください。(〇は3つまで)

<図表2-3>犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由/前回比較



※ () 内は前回調査では(ネット犯罪、振り込め詐欺等)と記載

問7で「非常に高くなった」、「高くなった」と回答した257人に犯罪が発生する可能性が高くなったと感じる理由についてたずねたところ、「犯罪が多様化、巧妙化してきたから(インターネット犯罪、振り込め詐欺等)」が72.0%と最も多く、以下、「不審者が多くなったような気がするから」(38.1%)、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」(32.7%)となっています。

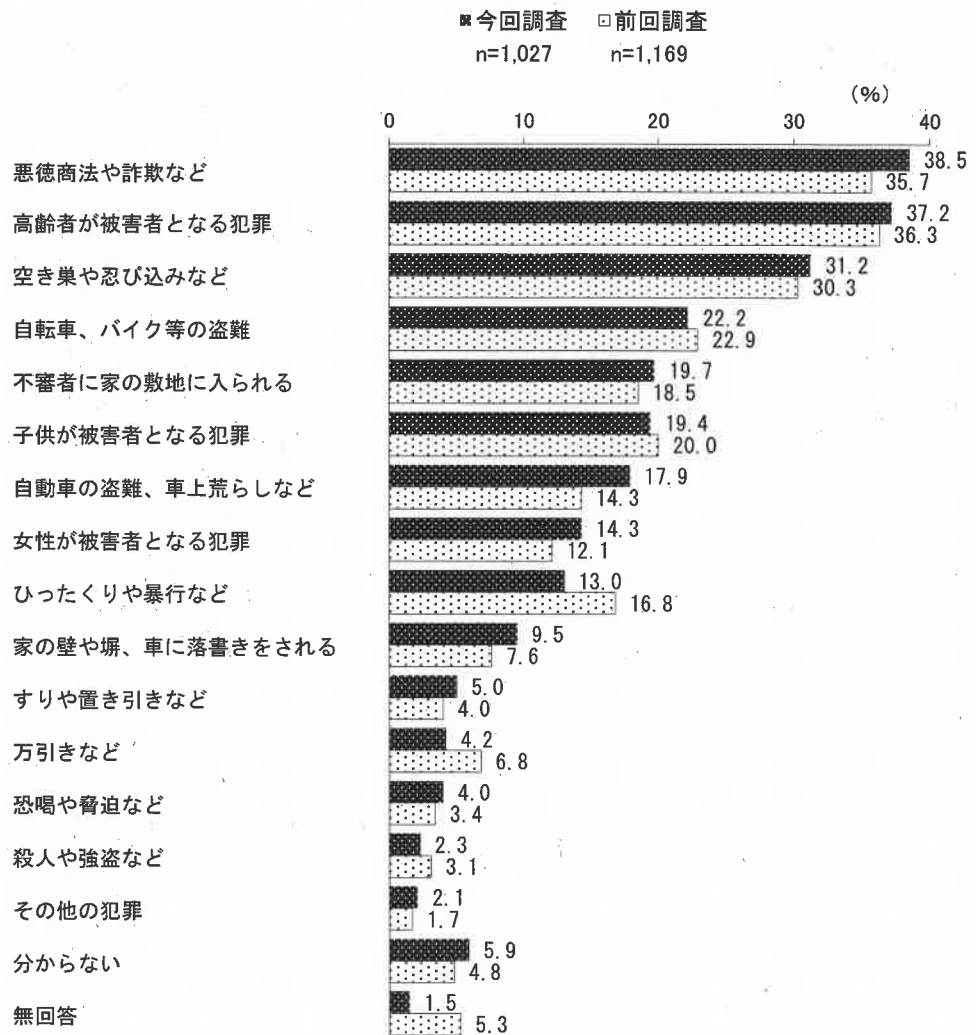
前回調査と比較すると、「経済情勢が以前に比べ厳しくなったから」が16.6ポイントの増加、「全国的に凶悪な事件が多発しているから」が21.1ポイントの減少となっています。

●日常生活において発生する可能性が高いと思う犯罪

問8 あなたは、日常の行動範囲で発生する可能性が高いと思う犯罪は次のうちどれですか。

(○は3つまで)

<図表2-5>日常生活において発生する可能性が高いと思う犯罪/前回比較

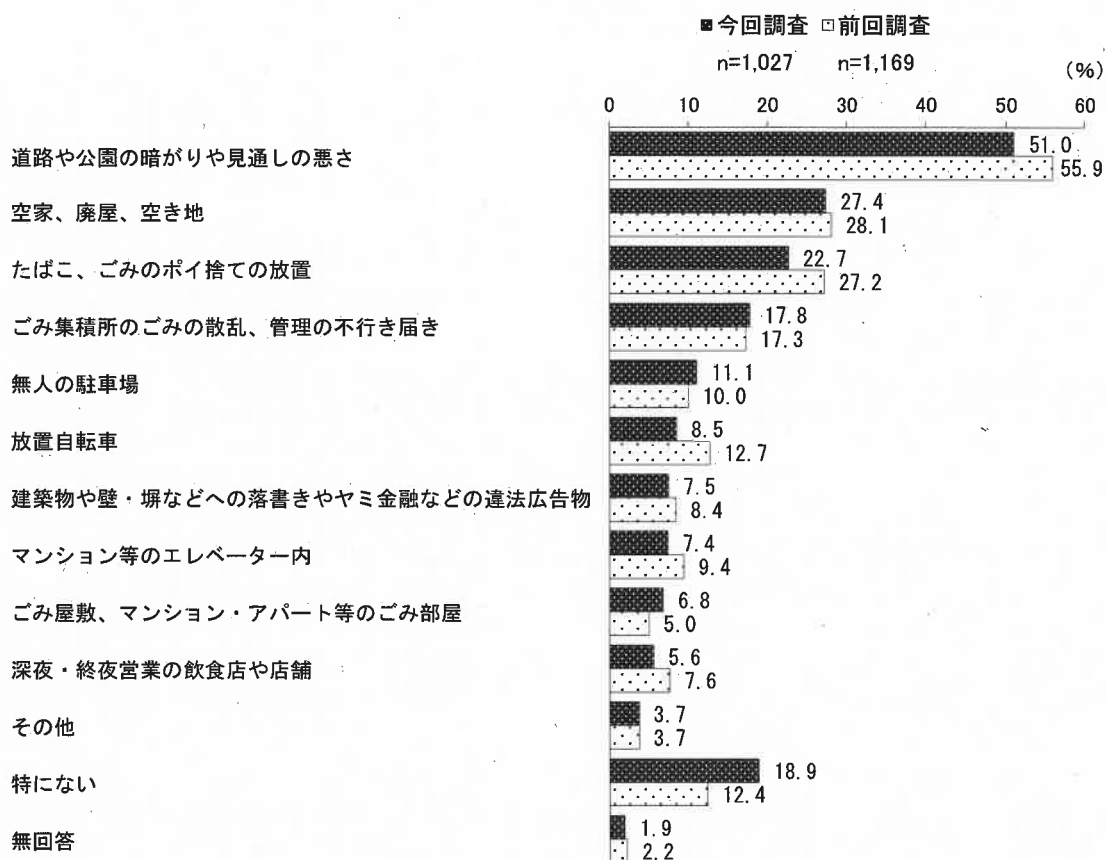


日常生活において発生する可能性が高いと思う犯罪は、「悪徳商法や詐欺など」が38.5%で最も多く、以下、「高齢者が被害者となる犯罪」(37.2%)、「空き巣や忍び込みなど」(31.2%)となっています。前回調査と比較すると、「自動車の盗難、車上荒らしなど」は3.6ポイント、「悪徳商法や詐欺など」は2.8ポイント増加した一方、「ひったくりや暴行など」は3.8ポイント、「万引きなど」は2.6ポイントの減少となっています。

●地域で犯罪の発生を招くものとして不安に感じているもの

問9 あなたのお住まいの地域で、犯罪の発生を招くものとして不安に感じているものは、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

<図表3-1>地域で犯罪の発生を招くものとして不安に感じているもの/前回比較



地域で犯罪の発生を招くものとして不安に感じているものは、「道路や公園の暗がりや見通しの悪さ」が51.0%で最も多く、以下、「空家、廃屋、空き地」(27.4%)、「たばこ、ごみのポイ捨ての放置」(22.7%)となっています。

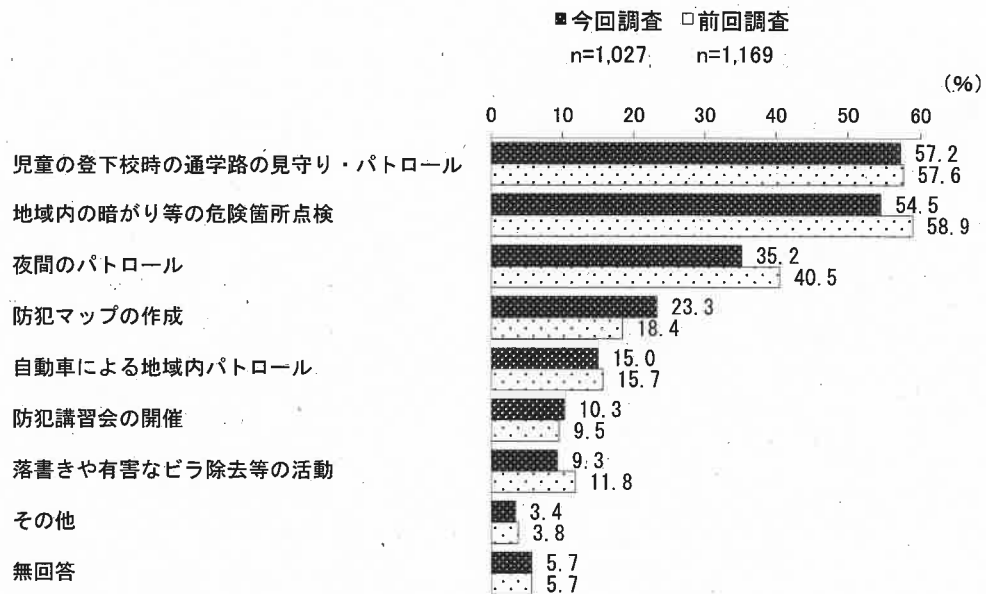
前回調査と比較すると、「道路や公園の暗がりや見通しの悪さ」は4.9ポイント、「たばこ、ごみのポイ捨ての放置」は4.5ポイントの減少となっています。

(2) 地域の防犯対策

●地域の防犯力を高めるために必要な取り組み

問11 あなたは、地域の防犯力を高めるために、地域でどのような取り組みをしていく必要があると思いますか。(〇は3つまで)

<図表3-5>地域の防犯力を高めるために必要な取り組み/前回比較



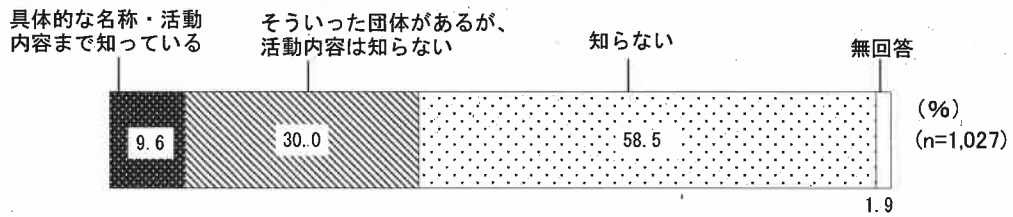
地域の防犯力を高めるために必要な取り組みは、「児童の登下校時の通学路の見守り・パトロール」が57.2%で最も多く、以下、「地域内の暗がり等の危険箇所点検」(54.5%)、「夜間のパトロール」(35.2%)となっており、身近なところからの犯罪の起きにくい環境整備が地域に求められていることが分かります。

前回調査と比較すると、「夜間のパトロール」は5.3ポイント、「地域内の暗がり等の危険箇所点検」は4.4ポイントの減少となっています。ほとんどの項目で前回より減少した一方、「防犯マップの作成」は4.9ポイント増加しました。

●防犯協会の認知度

問13 あなたのお住まいの地域の「防犯協会」という組織を知っていますか。(○は1つ)

<図表3-9>防犯協会の認知度



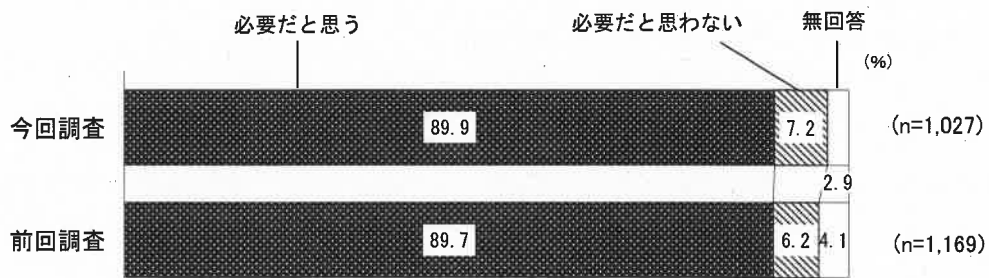
(今回調査より設問追加のため、前回比較なし)

防犯協会の認知度については、「具体的な名称・活動内容まで知っている」が9.6%となっており、「知らない」(58.5%)、「そういった団体があるが、活動内容は知らない」(30.0%)と、半数以上が防犯協会を認知していない状況となっています。

●防犯活動の必要性

問14 あなたは、地域の防犯活動は必要だと思いますか。(○は1つ)

<図表3-11>防犯活動の必要性/前回比較



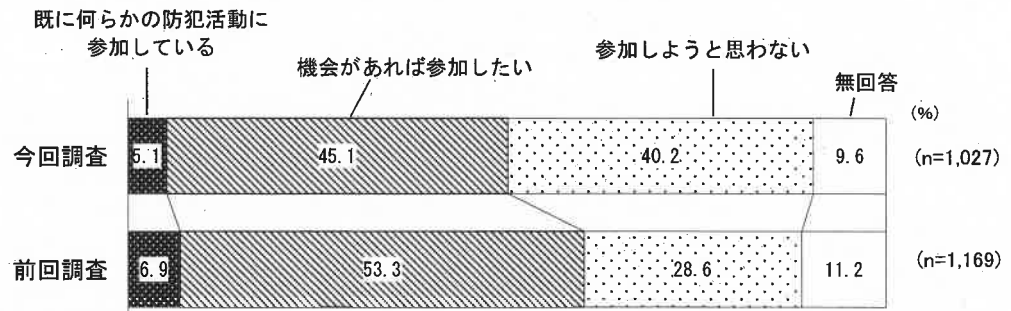
地域の防犯活動の必要性については、「必要だと思う」は89.9%となっており、「必要だと思わない」の7.2%を大きく上回る結果となっています。

前回調査と比較すると、「必要だと思う」は0.2ポイントの増加、「必要だと思わない」は1.0ポイントの増加となっています。

●防犯活動への参加意向

問15. あなたは、地域の防犯活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

<図表3-15>防犯活動への参加意向/前回比較



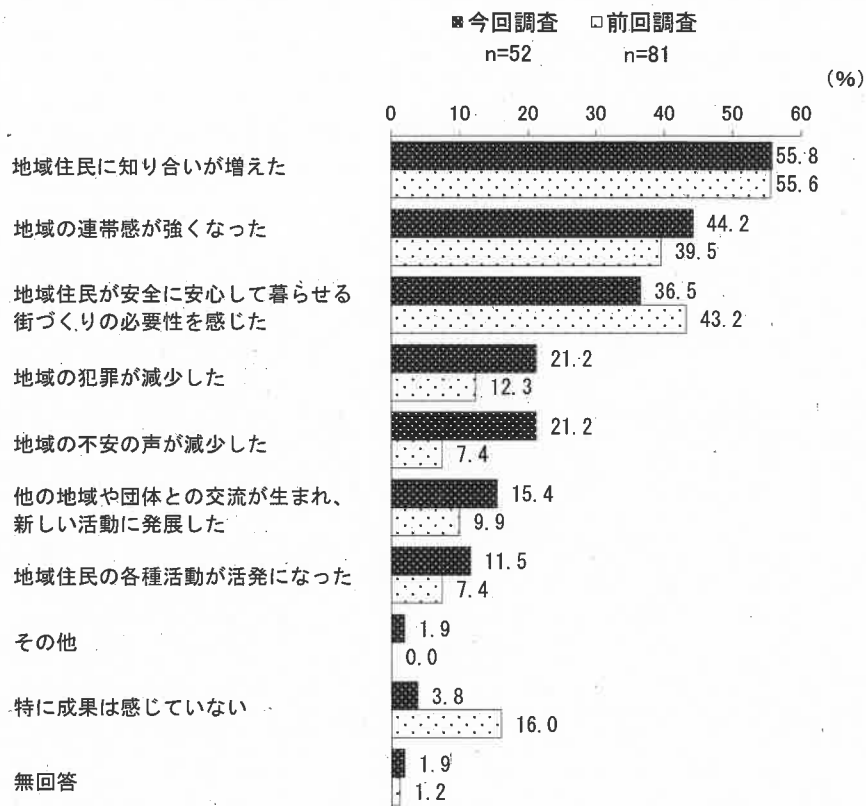
防犯活動への参加意向については、「機会があれば参加したい」が45.1%で最も多く、以下、「参加しようと思わない」(40.2%)、「既にならかの防犯活動に参加している」(5.1%)となっています。

前回調査と比較すると、「機会があれば参加したい」が、8.2ポイント減少、「参加しようと思わない」が11.6ポイント増加となっています。

●防犯活動に参加して成果があったと感じていること

問15-2 防犯活動に参加してどのような成果があったと感じていますか。(〇はいくつでも)

<図表3-19>防犯活動に参加して成果があったと感じていること/前回比較



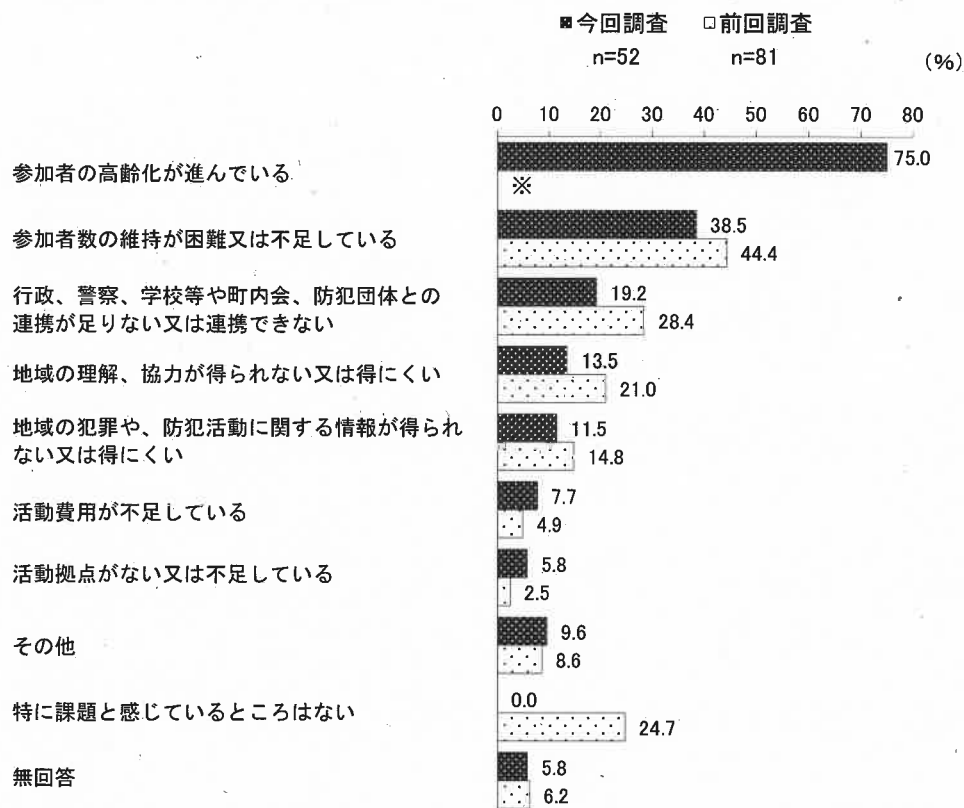
問15で「既に何らかの防犯活動に参加している」と回答した52人に、防犯活動に参加して成果があったと感じていることについてたずねたところ、「地域住民に知り合いが増えた」が55.8%で最も多く、以下、「地域の連帯感が強くなった」(44.2%)、「地域住民が安全に安心して暮らせる街づくりの必要性を感じた」(36.5%)となっています。

前回調査と比較すると、「地域の不安の声が減少した」が13.8ポイント、「地域の犯罪が減少した」が8.9ポイントの増加、「特に成果は感じていない」は12.2ポイントの減少となっています。

●防犯活動に参加して感じた課題

問15-3 参加してみて感じた、防犯活動の課題をお答えください。(〇はいくつでも)

<図表3-21>防犯活動に参加して感じた課題/前回比較



※は選択項目になし

問15で「既に何らかの防犯活動に参加している」と回答した52人に、防犯活動に参加して感じた課題についてたずねたところ、「参加者数の高齢化が進んでいる」が75.0%で最も多く、以下、「参加者数の維持が困難又は不足している」(38.5%)、「行政、警察、学校等や町内会、防犯団体との連携が足りない又は連携できない」(19.2%)、「地域の理解、協力が得られない又は得にくい」(13.5%)となっています。

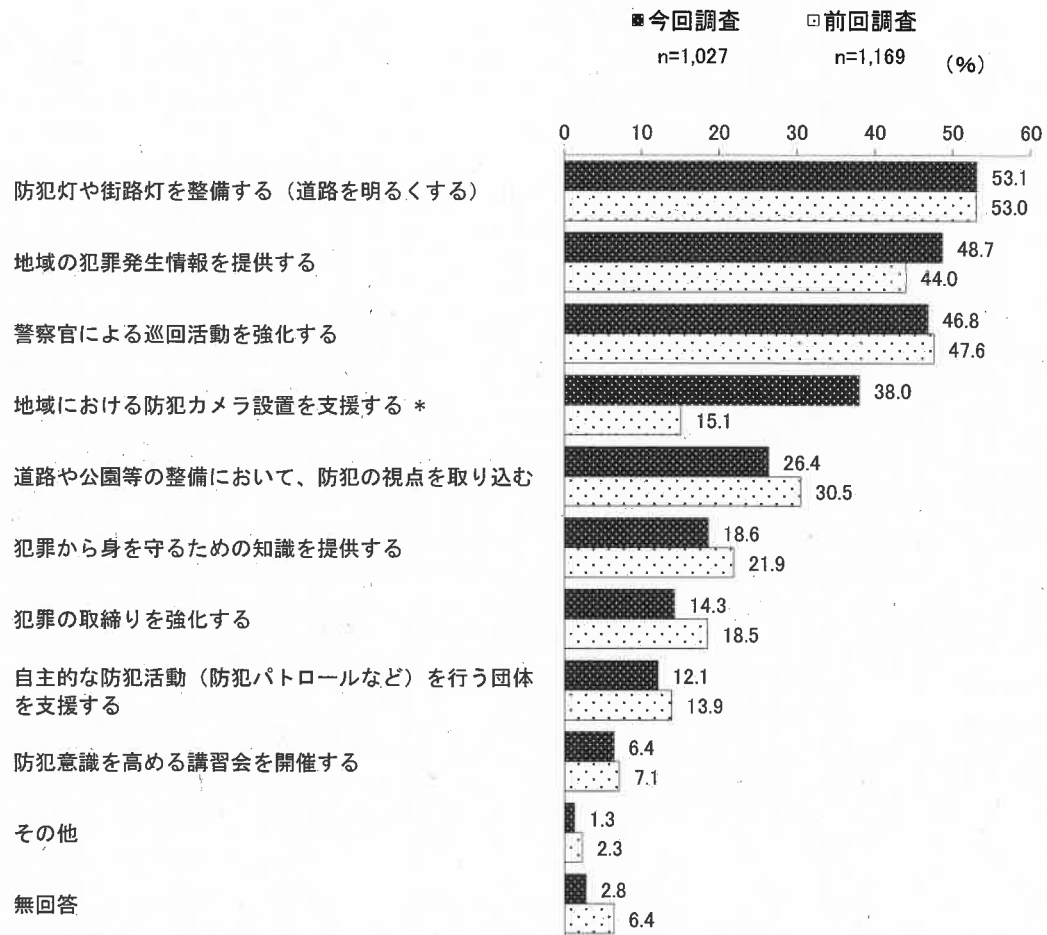
前回調査と比較すると、「特に課題と感じているところはない」が24.7ポイントの減少となり、ほとんどの項目が減少しましたが、「活動拠点が無い又は不足している」が3.3ポイント、「活動費用が不足している」は2.8ポイントの増加となりました。

(3) 行政や警察に望む防犯対策

●安全で安心な街づくりのために重要と考える行政や警察の取り組み

問16 あなたは、犯罪のない安全で安心な街づくりのために、行政や警察のどのような取り組みが重要だと思いますか。(〇は3つまで)

<図表4-1>安全で安心な街づくりのために重要と考える行政や警察の取り組み/前回比較



* 前回調査では「繁華街や商店街などに防犯カメラを整備する」と記載

安全で安心な街づくりのために重要と考える行政や警察の取り組みについては、「防犯灯や街路灯を整備する (道路を明るくする)」が53.1%で最も多く、以下、「地域の犯罪発生状況をj提供する」(48.7%)、警察官による巡回活動を強化する」(46.8%)、となっています。

前回調査と比較すると、「地域における防犯カメラ設置を支援する」は22.9ポイント、「地域の犯罪発生情報を提供する」は4.7ポイント増加、「犯罪の取締りを強化する」は4.2ポイント、「道路や公園等の整備において防犯の視点を取り込む」は4.1ポイント減少となっています。

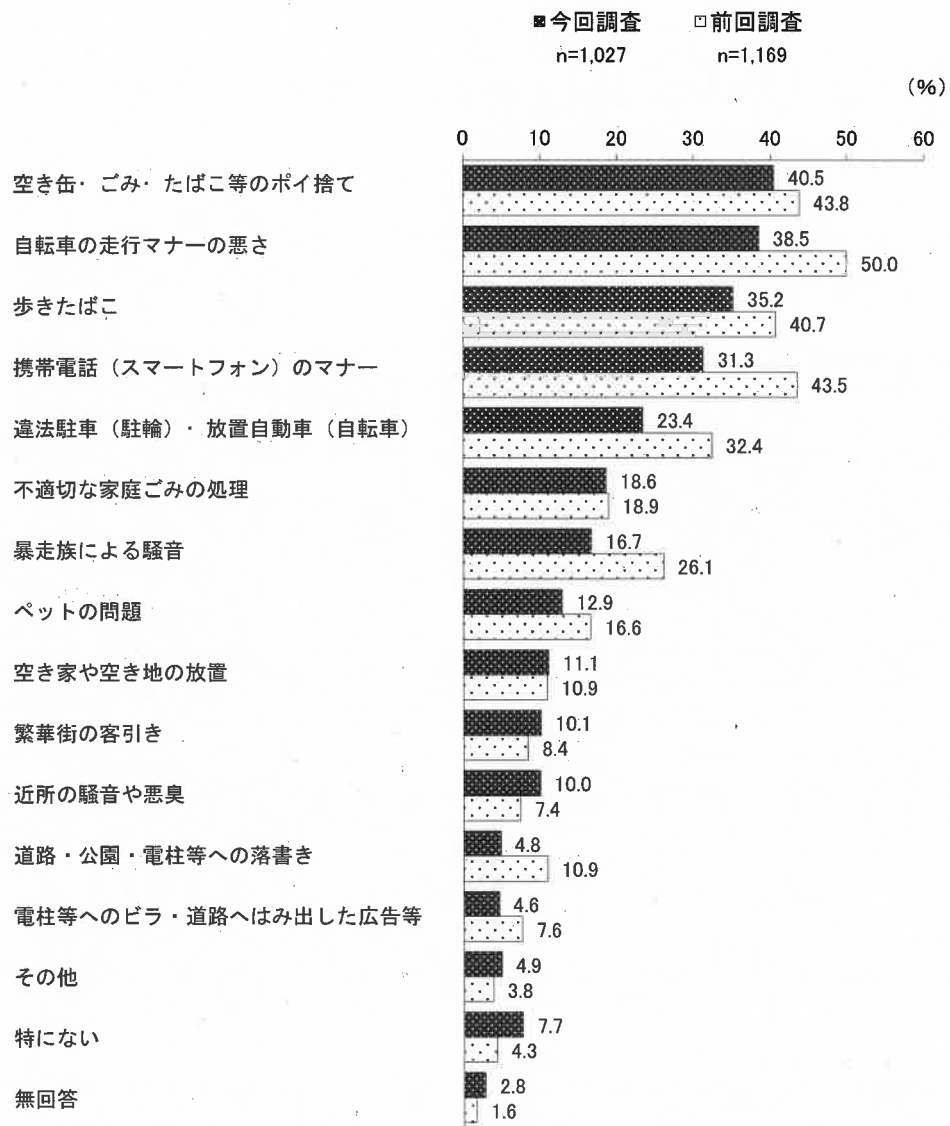
(4) 迷惑行為について

● 1年間で迷惑と感じた行為

問17 あなたが、この1年間で迷惑と感じた行為として、どのようなものがありましたか。

(○はいくつでも)

<図表5-1> 1年間で迷惑と感じた行為/前回比較



1年間で迷惑と感じた行為は、「空き缶・ごみ・たばこ等のポイ捨て」が40.5%で最も多く、以下、「自転車の走行マナーの悪さ」(38.5%)、「歩きたばこ」(35.2%)となっている。

前回調査と比較すると、「携帯電話(スマートフォン)のマナー」で12.2ポイント、「自転車の走行マナーの悪さ」は11.5ポイント、「暴走族による騒音」は9.4ポイント、「違法駐車(駐輪)・放置自動車(自転車)」で9.0ポイントの減少となっています。ほとんどの項目で前回より減少した一方、「近隣の騒音や悪臭」は2.6ポイント増加しました。